

御宝殿熊野神社の祭礼

開催時期

7月第3月曜日(海の日)

会場

熊野神社



熊野神社は鮫川右岸、錦町御宝殿地内に所在します。

かつて祭礼日は旧暦の6月15日に行われていましたが、明治34年(1901)に県社になった頃、旧暦から新暦に実施日が改められ、8月1日に定められました。

例祭は7月31日から始まります。天皇の御遣いである勅使役(お勅使様。7歳未満の小児)が介添役などに付き添われて飾り馬に乗って、須賀海岸で禊をした後、神社でお籠りをします。

翌8月1日は本祭りでは、午後3時前後から、小学生が地元の楽人による笛と太鼓を織り混ぜた雅楽調のお囃子に乗せて、五穀豊穡や子孫繁栄を祈願しながら、社殿前で稚児田楽の舞を奉納します。8人の童子のうち2人は浴衣、社紋の入った羽織、烏帽子をまとい、露払いの役で兎と烏の鉾をそれぞれ持って踊ります。一方6人は露払いの格好で、三つ折り枝笠を被ってビンザサラを鳴らしながら踊ります。ビンザサラはヒノキの細板を麻紐で綴った古代楽器で、ザラッ、ザラッと鳴ることから、ザラッコとも呼ばれています。この田植え踊り・「御宝殿熊野神社の稚児田楽・風流」は昭和51年(1976)3月、国の重要無形民俗文化財に指定されました。

続いて、境内の檜の上で鷲の舞や竜の舞、鹿の舞、獅子の舞が披露されます。次いで、飾り馬に乗った勅使が参道を行きます。馬上の勅使には、烏帽子に束帯の姿で地域の稚児が当てられ、神のお降りになったしるしとして馬上で眠れば無事祭事が終わります。その後すぐに、参道を神輿の渡御が行われ、早馬疾走で祭りは終了します。





7年に一度、大祭が行われ、神輿が田人町黒田に所在する御齋所山の奥宮から下りて、鮫川河口に広がる須賀海岸で、里宮の神輿とともに、浜下り（「浜降り」の表現もあるが、文化財保護の観点で「浜下り」を使用しているため、これに従いました）の神事を行いました。この大祭は昭和17年（1942）、昭和42年（1967）、平成25年（2013）と、断続的に行われています。

近年、祭りの実施日が休祝日へ移行するなか、熊野神社も、平成25年には一旦8月第1週の土、日曜日へ、さらに平成28年（2016）からは7月の「海の日」を本祭り、その前日を宵祭として遷されました。

このほか、元旦の「歳旦祭」、8月1日の「鎮座記念祭」、11月23日の「新穀感謝祭」が行われています。

祭礼は、時代の変遷とともに変化し、昔に比べ形態的に簡素化されたとはいえ、かつて面影を残し、地域の人々の手によって連綿と続けられています。

お問合せ

熊野神社

TEL：0246-62-2207

住所：〒974-8232 福島県いわき市錦町御宝殿 81

